

『李平古文書』『李平古地図』

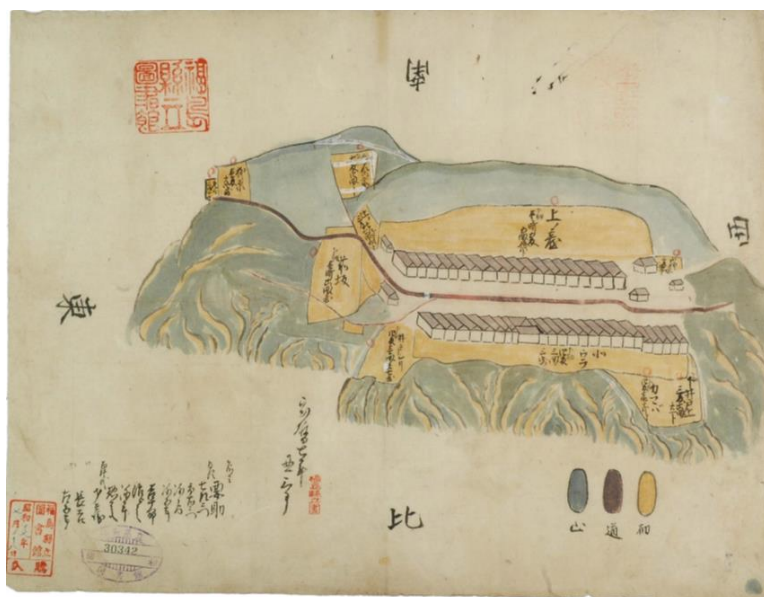
福島市北西部の山中に「李平」という地名があります。現在は誰も居住していない場所ですが、ここにはかつて、信夫郡李平村（しのぶぐん すももだいらむら）という村がありました。福島県福島市と山形県米沢市の県境に位置するこの村は、江戸時代には米沢藩が参勤交代で使用した旧米沢街道（板谷街道）が通り、小規模ながらも宿場としての重要な役割を果たしていた時期がありました。李平宿が開かれたのは、慶長18（1613）年と言われています。その後、飢饉、大火、交通事情の変化等により、戸数が減り、大正7（1918）年に廃村となりました。約300年の村の歴史や当時の人々の生活の一端が垣間見える史料が残っており、当館では、古文書12通、古地図（絵図）8鋪を所蔵しています。

古文書・古地図ともに、年不明なものもありますが、古文書は12通のうち、半数の6通が1600年代に書かれたものです。一方、古地図は、宝暦7（1757）～12（1762）年間の3鋪をはじめ、多くは1700年代に描かれたもののようです。最も古い年月が明示されている史料は元和4（1618）年正月の『泉村沢俣村々之内荒開作』と同年3月の『李平村上下伝馬書状』の2通の古文書です。「上下伝馬之儀」で始まる書状の内容から、荷の運搬等に牛が使われていたことがわかります。他にも承応3（1654）年の『海道通し牛之儀書付』、『牛通し申越書状』（年不明）と牛が度々取り上げられており、生活に欠かせなかったことがうかがい知れます。

古地図は、宝永3（1706）年のものが最も古く、最も大きい史料です。広げると縦120cm×横140cmほどの大きさになりますが、ところどころ欠けてしまっており、完全な姿ではありません。この図には、村内を含め村の周辺の様子が描かれています。古地図は、大別すると村周辺図と村内図に分けられます。村の周辺が描かれた図をみると、李平が深い山中にある村だということが一目瞭然で、北側を流れる松川、西側に広がる御林（おはやし）が目にとまります。村内が描かれた図は2枚あり、どちらも畑、道、山など土地利用の状態が色分けされています。村の中央を街道が通り、その両側に家が立ち並び、家の周辺には畑が見られます。宝暦7（1757）年の図では畑だった場所が、別の図（年不明）では古畑荒地になっていたり、描かれている家の数が減っていたり、古地図から村の変化の様子が見て取れます。

『李平古文書』と『李平古地図』は、1枚のCD-ROMに収録しており、館内閲覧または館外貸出でご覧いただくことができます。どうぞご利用ください。

宝歴7年の図



年不明の図



〈参考文献〉

- ・『福島市史別巻5 福島町の町と村Ⅰ』 福島市史編纂委員会／編 福島市教育委員会 1982.3
- ・『日本歴史地名大系7 福島県の地名』 平凡社 1993.6
- ・『角川地名大辞典7 福島県』 角川書店 1981.3
- ・『福島大百科事典』 福島民報社 1980.11

(地域資料チーム 梅津直美)